

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200539		
法人名	社会福祉法人 愛世会		
事業所名	グループホームセンチュリー21		
所在地	宇部市大字山中126-1		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町受理日	平成27年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食事は入居者の希望や提供した食事の食べ具合で判断するなどして献立作りをし1日3食職員と一緒に作っている。また体調の悪い時や食欲がない時にはお粥やリンゴをすったりして状態に応じた支援も行っている ・月1回の外食や各種レクリエーション、季節の行事等を実施している ・家族へ毎月発送しているグループ便りの「担当者のコメント」欄で状況等を報告している ・母体施設である特養からの応援体制が整っている ・1日2回特養主任看護師(グループホーム担当看護師)による様子観察や相談などを行っている ・行事として「思い出の地の散策」を個別で行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入居時に、生活歴や暮らし方、できること、できないこと、わかること、わからないこと、私の気持ち等、利用者の思いやこれまでの生活の全体像の把握に努められ、一人ひとりの生活のリズムに合わせた個別日課計画表を作成しておられます。「思い出の地の散策」として利用者から行きたい場所や願いを聞き出され、その思いを実現することで、馴染みの関係継続や外出機会を増やすことにつながる個別支援に取り組まれています。食事を楽しむ支援においても三度の食事を利用者と一緒に事業所でつくっておられ、利用者の希望にそって、買物や野菜の下ごしらえ、味見、米を研ぐ、お茶くみ、メニュー書きなど、できること楽しく取り組んでおられ、一人ひとりが張合いを持ってるように支援しておられます。職員は理念である利用者一人ひとりが「ゆっくり、一緒に、楽しく」暮らせるように個別性を大切に支援に取り組んでおられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」と「地域の行事への参加と受け入れ」を掲げ実践に繋げているように努めている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時に月毎の介護心得と一緒に唱和して共有している。毎日、唱和することで職員に意識づけ、日々のケアやケアカンファレンスにおいて理念がケアに反映しているかを話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から離れた場所にある為日常的な交流は難しいが安全や体調などを考慮しながら努めている	法人の隣接4事業所が1つの自治会を形成し、施設長が自治会長になっている。利用者は地域の文化祭に出かけ、展示物の見学や買物、食事をして交流している他、保育園の運動会や発表会に参加して交流している。法人の夏祭りに参加の地域の人や法人の敬老祝賀会に参加の家族、法人他施設に来訪のボランティア(踊り、歌、草笛、楽器演奏等)の人と交流している。ふれあい体験で訪問している地域の小学生、中学生と一緒に食事をつくりゲームをして交流している。日常的に法人他施設に来訪の人と挨拶を交わし、地域にあるスーパーに食材の買物に出かけて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の小中学生との「ふれあい体験」等の交流を行っている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解して改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解し、業務を振り返る機会として捉え、自己評価に取り組んでいる。管理者は職員から随時意見を聞き、記録したものを再度職員に提示してまとめている。評価を活かして毎年度、目標達成計画を立て個別ケアの充実にに向けた具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員から風邪についての質問があった時、特に症状のある方はおられずインフルエンザ注射も全員済ましていることを説明した	年6回、定期的に開催し、利用者の状況や行事内容の紹介、入居者の動向、自己評価、外部評価、職員の研修等の報告、事例検討をしたあと話し合いをしている。参加者を増やし、理解を深め、交流の機会となるよう、他事業との組み合わせやプロジェクターの活用等の工夫をしている。事例検討を通しての意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に相談したり助言を頂いたりしながら協力関係を築いている	担当課とは運営推進会議時の他、電話で申請や制度の変更、事例相談等を行い、助言を得ている他、施設長を通して事業所の実情やサービスの取り組みを報告して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で「身体拘束廃止委員会」の会議を年2回(4月・10月)行っている	「身体拘束廃止に関する指針」を基に研修を行い、管理者の「身体拘束廃止委員会」への出席を通して職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。生命の安全を第一にやむを得ず、窓に施錠をする場面もあるが玄関には施錠をしないで拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の施設内研修で毎年虐待についての勉強会が行われ参加している		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談や要望等があった場合は支援していきたい		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとにわかりやすい説明に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の「苦情申し出窓口」に投書があり反省と共に改善に向けてすぐに話し合い周知徹底した	苦情の相談窓口や受付体制、第三者委員、外部機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。介護相談員が訪問し、利用者から意見を聞いている。運営推進会議時や年1回の家族会、年2回の食事交流会、敬老祝賀会、面会時、電話等で直接家族の意見や要望を聞いている他、「苦情申し出箱」を設置している。面会時の職員の対応についての要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員の意見を聞き必要に応じては施設長に相談するなどして反映させている	管理者は月1回のグループホーム会議で職員の意見や提案を直接聞いている他、日頃から意見が言いやすいようにコミュニケーションを図っている。提案があればすぐにカンファレンスを行い、職員間で検討し、内容によっては施設長に報告して活かしている。勤務体制や安全のための手すりの設置、利用者の重度化による対応等の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を目指す職員に対して研修参加の時には勤務を融通するなど可能な支援を行っている。また資格手当などの支給がある		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は受けられるように勤務体制を整えたりGH内でも研修委員を設け年に4回GH内研修を行っている	外部研修は職員の段階や希望に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後はグループホーム会議や日々のケアを通して、関連ある内容を報告し共有している。法人では全施設対象に年に2回から3回の研修(口腔ケア他)と隣接4施設合同で毎月、職員会議後に身体拘束防止や食中毒等の研修を実施している。内部研修は3名の研修委員を中心に年4回(応急手当や事例検討等)実施している。職員の研修受講台帳を作成して受講の機会の確保と計画的人材育成に取り組んでいる。日常の業務をとおして職員間で互いに知識や技術の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他のグループホームの運営推進委員会に委員として参加させて頂き交流に繋がっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと関係づくりに努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いなどを受け止め安心に繋がっているような関係づくりに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は考えていないが状況によっては母体施設の応援をお願いしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースや行動等を優先しながら一緒に行動するなどして関係を築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時には居室にお茶や椅子等をお持ちして本人とくつろいでもらっている。時には本人を交えて状況報告しながら意見交換している		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「思い出の地の散策」と称して馴染みの場所を訪れたりして個別の支援に努めている	家族や親戚の人の来訪がある他、電話の取次ぎの支援をしている。馴染みのスーパーでの買物や外食の他、神社参拝や墓参等、年2回は利用者にとって馴染みの場所を訪れる個別支援に取り組んでいる。家族の協力を得て馴染みの店での外食や墓参など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の座席の位置などを配慮したり職員がきっかけを作ったりするなどして支援に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談等があればいつでも支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が思ったこと感じたことなどがあればすぐにカンファレンスを開き検討している	入居時にはセンター方式の5つのシートを活用している他、入居後は日々の関わりを通して利用者の表情や言動を個人記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報や職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族からの情報を参考にしてくらしの把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が「日課計画表」を作成して現状の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いなどを把握し、主に担当職員と話しながら介護計画を作成して3か月ごとにモニタリングを実施している	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に随時カンファレンスを開催し本人や家族の思いや意向、要望を聞き、嘱託医、看護師、介護相談員等関係者の意見を参考にして介護計画と個別日課計画表を作成している。モニタリングは3か月毎に実施し、6か月から1年毎に見直しをしている。状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画と個別日課計画表を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースで情報共有しながら気づきがあればカンファレンスをすぐ開き介護計画の見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との墓参や外食に付き添うなどして支援に取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月2回介護相談員が来訪している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定のかかりつけ医が決まっていない場合は法人の嘱託医による適切な医療が常に受けられるように支援している	本人、家族の同意を得て嘱託医をかかりつけ医とし、1週間に2回の訪問診療がある。往診時には看護師が情報提供をしている。協力医療機関の歯科受診や他科受診、緊急時等の支援をしている。受診結果は面会時や電話で家族に報告して共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の特養主任看護師が兼務でGH担当看護師の為毎日2回健康状態の把握に努め相談や受診の手配、24時間オンコールなどの支援を受けている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人で提携病院を定めており状況に応じて病院関係者との情報交換等に努め利用者やその家族の安心に繋がる入退院に努めている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にGHでの生活が難しくなった場合には母体施設の特養への転居の考えを示している	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、契約時に法人関連施設への移設も含めて家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から家族やかかりつけ医、看護師、職員等で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	研修委員を決めて年4回GH独自の研修を行っている	ヒヤリハット報告書、事故報告書に発生状況、対応、予防策を記録して施設長に報告しているとともに、職員間で話し合い、共有し、介護計画に反映して、一人ひとりの事故防止に努めている。法人内で実施する救急救命法やAEDの使用法についての研修は全員が受講し、内部研修で骨折、転倒予防等事故防止に関する内容を実施しているが、全職員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月法人で避難訓練や防災訓練など実施して協力体制を築いている	マニュアルがあり、法人隣接4事業所合同で防火管理者の指導による昼夜の火災や地震、風水害を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、通報訓練(消防署の確認有)を毎月実施し、利用者と一緒に参加している。災害に備えての備蓄等、法人内での協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄関係の言葉かけ等には大声をだしたりしないように対応している	介護の心得、接遇等について、毎朝の唱和を通して学び、人格の尊重とプライバシーの確保について、職員は理解している。呼称や排泄時の言葉かけ、対応に配慮して、自分が嫌だと思わないで誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。不適切な対応があれば管理者が指導している。個人情報には取り扱いに注意し、守秘義務については指導をし職員は理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話し掛けてきた時、または話がいような雰囲気の時にはゆっくりと傾聴し、思っている事や感じていることなど思いをくみ取っている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の飲酒の量をきめていつでもどれだけ飲むかは本人に任せている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する利用者にはヘアカラーをしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の時には、それぞれに役割分担が決まっており声掛けをしながら一緒に行っている	利用者の好みを聞いて献立を立て、事業所の菜園で採れた旬の野菜や新鮮な食材を使って三食とも事業所で調理している。利用者は買物、野菜の下ごしらえ、米を研ぐ、味見、お茶くみ、テーブル拭き、配膳、トレイを並べる、箸を並べる、食器洗い、後片付け、メニュー書きなど、できることを職員と一緒に取り組んでいる。利用者と職員は同じテーブルで会話を弾ませながら同じものを食べている。誕生日の夕食やケーキ、季節行事食(おせち料理、クリスマス、餅つき他)、弁当持参で戸外食、水分確保も考慮して好きな飲み物を揃えるなど食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給が難しい利用者には本人の好きなものを準備して1日の目標摂取量を決めタイミングを計ったり生活習慣に取り入れれたりして支援している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯は毎日就寝時に洗浄剤に浸けている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えがあった時には待たせることなくすぐに対応するのは当たり前として、個々のパターンやシグナルの把握に努め自立又は低下予防に努めている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。言葉かけや見守りで2名が自立している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食に雑穀米を少量取り入れたり野菜を意識した献立作りに努めている。そして体操や歩行運動を毎日行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回、14時頃～17時頃行っている。拒否がある時にはタイミングを計ったり時間をあけたり対応する職員が変わったりするなどして支援している	入浴日は月、水、金を予定し、入浴時間は14時から17時までの間に入浴時間や湯加減、湯の量、入浴剤など希望にそって対応し、くつろいで入浴できるように支援している。柚子湯や菖蒲湯にして季節感を味わえる工夫をしている。入浴したくない人には無理強いしないで時間や介助者を代えるなどの工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れるタイミングを計りベットへ誘導したり本人の希望に応じたり又はホットミルクを飲んでもらったりして気持ちよく眠れるように支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減や変更があったときにはその後の状態を嘱託医に報告したり相談したりしている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	DVDで昔の歌や映像を楽しんだり唱歌を歌ったりして敬老祝賀会の時には披露してもらった	テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、広告を見る、歌を歌う、ことわざカルタ、ぬり絵、ちぎり絵、習字、散歩、外出、餅つき、ラジオ体操、きよしのズンドコ体操、元気体操、手遊び、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツを掛ける、シーツを外す、モップかけ、食事のメニューを書く、少量の飲酒、買物、野菜の下ごしらえ、米を研ぐ、味見、お茶くみ、テーブル拭き、トレイを並べる、箸を並べる、配膳、後片づけ、食器洗いなど、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくって支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	週3回の食材の買い出しや毎月の外食、行事の外出そして「思い出の地の散策」と称して個別の外出を支援している	散歩や買物、中庭や外庭での外気浴、日光浴、茶畑の散策、季節の花見(梅、桜、つつじ、菖蒲、紅葉)、ドライブ(常盤公園、維新公園)、外食、初詣、八幡様、地域行事に参加している他、家族の協力を得て墓参りや外食など、利用者の希望にそって外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使う事への支援はしていない		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎなど支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽射しの強い場所にはカーテン等を使ったり温度湿度計でエアコンで調整したりしている	玄関には季節の花を飾り、居間は大窓からの自然光が差し込んで明るく、机や椅子、ソファ、テレビを配置し、利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。台所からの食事をつくる音や匂いは五感を刺激し、壁面の白板には利用者による手書きの「本日食事メニュー」が掲示してある。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子などを数か所設置して居場所作りや気分転換が図れる場所づくりの工夫をしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や家族の写真、ポスターなど壁に飾るなどして工夫している	箆笥、机、椅子、衣装ケース、仏壇、時計、温湿度計、ぬいぐるみなど使い慣れた物や好みのものを持ち込み、カレンダーや家族写真、夫の表彰状、自作品の掛け軸やぬり絵などを飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの手すりやポータブルトイレ、シルバーカーや歩行器を利用して安全を優先に考え少しでも自立した生活が送れるように工夫している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームセンチュリー21

作成日: 平成 27年 4月 20 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応などの実践力を身に付けるまでの訓練がされていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるまでの訓練を受講することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・研修委員を三名決める。 ・研修内容は骨折や心筋梗塞の発生や疑いの場合とする ・4月に法人での施設内研修をGH担当で実施することになりGH研修委員が講師となり応急手当や初期対応についての研修を実施する際、研修委員で勉強会を行う ・研修委員による勉強会を全職員も受講できるように勤務を組んでいく 	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。